

聖 霊

第4回 聖書に関連する聖霊の働き

□聖書と聖霊の関係

聖書は、神のことばが書き記された書物である。聖書が書き記され、それを私たちが読む段階まで、聖霊の働きが3つある。

第一は、啓示・・・啓示とは、真理、あるいは、それまでは知られていなかったことを明らかにすることである。神の啓示は、聖霊の働きによる。

第二は、靈感・・・啓示を受けた本人、または別に神によって立てられた記録者が、啓示された神のことばを文字にして記録した。このとき聖霊が働いて、記録に誤りがないように守ってくださり、筆記者の手を導いてくださった。この聖霊の働きを靈感という。

第三は、照明・・・書き記された聖書を、私たち信者が読むとき、神は私たち信者にその内容を正しく受け取ることができるようにしてくださる。このとき聖霊が働いて、信者の霊的目を開き、霊的理解力を与え、神のことばを正しく理解するように導く。この聖霊の働きを照明という。

□アウトライン

1. 啓示
2. 灵感
3. 照明

1. 啓示

啓示とは、真理、あるいは、それまでは知られていなかったことを明らかにすることである。神の啓示は、聖霊の働きによる。神の啓示を聖霊を通して受けたことを、旧約時代のダビデ王や預言者、新約時代の使徒たちについて見てみよう。

ダビデ王

Ⅱサム 23：1～3 これはダビデの最後のことばである。エッサイの子ダビデの告げたことば。いと高き方によって上げられた者、ヤコブの神に油注がれた者の告げたことば。イスラエルの歌の歌い手。「主の霊は私を通して語り」、そのことばは私の舌の上に

ある。イスラエルの神は仰せられた。イスラエルの岩は私に語られた。『義をもって人を治める者、神を恐れて治める者。』

預言者エゼキエル

エゼ 2 : 2 その方が私に語りかけると、霊が私のうちに入り、私を自分の足で立たせた。そのとき、私は自分に語りかけることばを聞いた。

使徒たち

ヨハネ 16 : 12~15 あなたがた（使徒たち）に話すことはまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐えられません。しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導いてくださいます。御霊は自分から語るのではなく、聞いたことをすべて語り、これから起こることをあなたがたに伝えてくださいます。

御霊はわたしの栄光を現されます。わたしのものを受けて、あなたがたに伝えてくださるのです。父が持つておられるものはすべて、わたしのものです。ですからわたしは、御霊がわたしのものを受けて、あなたがたに伝えると言ったのです。

使徒パウロ

I コリ 2 : 7~10a 私たちは、奥義のうちにある、隠された神の知恵を語るなのであって、その知恵は、神が私たちの栄光のために、世界の始まる前から定めておられたものです。

この知恵を、この世の支配者たちは、だれ一人知りませんでした。もし知っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。しかし、このことは、「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことがないものを、神は、神を愛する者たちに備えてくださった」と書いてあるとおりでした。それを、神は私たちに御霊によって啓示していただきました。

使徒ペテロ

II ペテ 1 : 19~21 また私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。夜が明けて、明けの明星があなたがたの心に昇るまでは、暗い所を照らすともしびとして、それに目を留めているとよいのです。ただし、聖書のどんな預言も勝手に解釈するものではないことを、まず心得ておきなさい。預言は、決して人間の意志によってもた

らされたものではなく、**聖霊に動かされた人たちが神から受けて語った**ものです。

- **聖書のどんな預言も**・・・ペテロがこの手紙を書いた時点では、新約聖書はまだ完成していない。聖書と言えば、旧約聖書である。しかし、この時点は新約時代の預言者たちが神からの啓示を受けていた時期でもある。ペテロは、パウロが諸教会に宛てた手紙についても旧約聖書と同等の権威を認めていた（Ⅱペテロ 3：16）。その内容が神からの啓示であったからである。

2. 霊感

霊感とは、啓示において明らかにされた真理を、聖書として記録させる聖霊の働きである。文字に記録する行為そのものは人間の働きであるが、その記録に誤りがないのは聖霊の働きによるものである。

なお、啓示されたことがすべて記録されるわけではない。黙示録 10：3～4には、使徒ヨハネは聞いたことを書き留めないように命じられた、とある。

霊感について教える聖書箇所は、次のとおりである。

ダビデ王は預言者でもあり、聖霊によって詩篇を記した

マタ 22：41～46 パリサイ人たちが集まっていたとき、イエスは彼らにお尋ねになった。「あなたがたはキリストについてどう思いますか。彼はだれの子ですか。」彼らはイエスに言った。「ダビデの子です。」イエスは彼らに言われた。「それでは、**どうしてダビデは御霊によってキリストを主と呼び、『主は、私の主に言われた。『あなたは、わたしの右の座に着いていなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで。』』と**言っているのですか。ダビデがキリストを主と呼んでいるのなら、どうしてキリストがダビデの子なのでしょう。」するとだれ一人、一言もイエスに答えられなかった。その日から、もうだれも、あえてイエスに質問しようとはしなかった。

- 『 』は、旧約聖書の詩篇 110：1

使徒 4：23～30 さて、釈放された二人（ペテロとヨハネ）は仲間のところに行き、祭司長たちや長老たちが彼らに言ったことを残らず報告した。これを聞いた人々は心を一つにして、神に向かって声をあげた。

「主よ。あなたは天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造られた方です。あな

たは聖霊によって、あなたのしもべであり私たちの父であるダビデの口を通して、こう言われました。『なぜ、異邦人たちは騒ぎ立ち、もろもろの国民はむなしいことを企むのか。地の王たちは立ち構え、君主たちは相ともに集まるのか、主と、主に油注がれた者に対して。』

事実、ヘロデとポンティオ・ピラトは、異邦人たちやイスラエルの民とともに、あなたが油を注がれた、あなたの聖なるしもべイエスに逆らってこの都に集まり、あなたの御手とご計画によって、起こるように前もって定められていたことすべてを行いました。

- 『 』は、旧約聖書の詩篇 2 : 1~2

預言者イザヤは聖霊によって預言書を記した

使徒 28 : 23~28 そこで彼ら（ローマ在住のユダヤ人たち）は日を定めて、さらに大勢でパウロの宿にやって来た。パウロは、神の国のことを証しし、モーセの律法と預言者たちの書からイエスについて彼らを説得しようと、朝から晩まで説明を続けた。ある人たちは彼が語ることを受け入れたが、ほかの人たちは信じようとしなかった。互いの意見が一致しないまま彼らが帰ろうとしたので、パウロは一言、次のように言った。

「まさしく聖霊が、預言者イザヤを通して、あなたがたの先祖に語られたとおりです。『この民のところに行って告げよ。あなたがたは聞くには聞くが、決して悟ることはない。見るには見るが、決して知ることはない。この民の心は鈍くなり、耳は遠くなり、目は閉じているからである。彼らとその目で見ること、耳で聞くことも、心で悟ることも、立ち返ることもないように。そして、わたしが癒やすこともないように。』ですから、承知しておいてください。神のこの救いは、異邦人に送られました。彼らが聞き従うこととなります。」

- モーセの律法と預言者たちの書・・・旧約聖書
- 『 』は、旧約聖書のイザヤ書 6 : 9~10

聖書はすべて神の靈感による

Ⅱテモ 3 : 15b~17 聖書はあなたに知恵を与えて、キリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。神の人がすべての良い働きにふさわしく、十分に整えられた者となるためです。

3. 照明

書き記された聖書を、私たち信者が読むとき、神は私たち信者にその内容を正しく受け取ることができるようにしてくださる。このとき聖霊が働いて、信者の霊的目を開き、霊的理解力を与え、神のことばを正しく理解するように導く。この聖霊の働きを照明という。

出エジプトのときにイスラエルの民に聖霊が同行していた。その働きは「賢くする」

ネヘミヤ9:20~21 あなたは、彼らを賢くしようと、ご自分の良き霊を与え、彼らの口からあなたのマナを絶やさず、彼らが渴いたときには水を与えられました。四十年の間、あなたは彼らを養われました。彼らは荒野で何も不足することなく、上着はすり切れず、足も腫れませんでした。

- 彼ら・・・エジプトを脱出したイスラエルの民

新約時代の信者には聖霊が内住し、神のことばを理解できるように教えてくださる

Iコリ2:11~14 人間のことは、その人のうちにある人間の霊のほかに、いったいだれが知っているでしょう。同じように、神のことは、神の霊のほかにだれも知りません。しかし私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神からの霊を受けました。それで私たちは、神が私たちに恵みとして与えてくださったものを知るのです。それについて語るのに、私たちは人間の知恵によって教えられたことばではなく、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばによって御霊のことを説明するのです。生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらはその人には愚かなことであり、理解することができないのです。御霊に属することは御霊によって判断するものだからです。

- 生まれながらの人間・・・霊的再生を受けていない人=信者ではない人

エペソ1:17~19 どうか、私たちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。また、あなたがたの心の目がはっきりと見えるようになって、神の召しにより与えられる望みがどのようなものか、聖徒たちが受け継ぐものがどれほど栄光に富んだものか、また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。

- 神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように・・・信者は信じた瞬間に聖霊の内住を受けている。すでに聖霊が与えられているが、ここでパウロがエペソの信者たちに御霊が与えられるように、と祈っているのは、聖霊による照明の働きがなされるようにとの祈り。内住の聖霊が信者の内側で働いてくださり、信者が旧約聖書やパウロの手紙を読んだときに、そこに啓示されている真理を理解できるよう、またそれを通して、神を知ることができるように、という祈りである。

聖霊が、照明の働きをするときには、2つの働き方がある。

- (1) 第一の働き方・・・信者が自分で聖書を読み学んでいるときに、その信者の思考に聖霊が光を与え（照らし）、聖書に記されている真理を理解させてくださる。
- (2) 第二の働き方・・・聖霊はすべての信者に19種類の「聖霊の賜物」のうちのどれかを少なくとも一つ以上、信者になったときに与えている。その19種類の中に【教える賜物】がある。【教える賜物】を持っている信者がその賜物を発揮して、他の信者を助けて聖書を理解できるようにする、これもまた照明の働きである。

いずれの働き方においても、信者の側には、「知性を尽くして神を愛する」(マタイ 22:37) という姿勢が大切である。真理を求める意欲と根気なしに照明は受けられないし、神への愛がない機械的学習でも照明は受けられない。